マイタウンガイド

十二所編

われら サークル仲間

「小春日吟社」

家計簿の
やりくり下手と
秋灯下
（竹内うた）

まぎれなく
あかげら打つや
霧の朝
（佐藤淳子）

頭を働かせるため、またボケ防止のためということで俳句を続けているグループで、会員は十人。「どんな句を作っても、会員の方々や先生と話し合うことがとても楽しいですし、友だちがたくさんできました。」

「いままでは、ただ歩いていたところも風景などに注意して歩くようになった。小さな草花にも名前があることを知り、句をひろいながらたびたび出歩くようになりました。」と話していました。十二所地区はむかしから俳句の盛んな所で、昭和四十年ごろまで「二六吟社」が、その後「あじさい吟社」、五年ほど前から「小春日吟社」と、つねに俳句会が続けられている文化地区です。

まちの話題

りんご無人直売所

曲田地区は、りんごの産地として知られています。同地区の畠山松治郎さんは、国道一〇三号線沿いに「安くて、おいしい」りんごの無人直売所を設けています。

畠山さんは「一日に四十袋前後出しています。孫のこずかいと思って始めました。」と話していました。人気は上々で、一人で五袋以上も買う人もいるとのことです。しかし、料金箱の中味とりんごの数があわないこともしばしばとか。「それでも人の良心を信じて無人直売所を続け、曲田りんごの名を広めたいですね」と話していました。この直売所は十月中ごろまで開かれるとのことです。

▲りんごを補充に来た畠山松治郎さんの奥さん

多くの人材を輩出した 成章書院

成章書院は寛政五年（一七九三）八月三日久保田（秋田）の御学館からの申し渡しにより創立されたものです。

当時の教職員は、教授二名、教授見習六名、目付二名、詰役十四名、受払役二名、賛学十四名、書記四名司書四名、門衛二名があたっていました。学習の内容は、毎月七・十七が書の講釈、二・二十二日が生徒の会読指導、五・二十五日は復習指導、十八日は漢詩の作詩会の指導で、学習時間は普通の生徒が午前十時から午後二時までとなっていました。しかし、お役所勤めやその他の事情のある生徒は、午後二時から四時までとなっていました。

この成章書院で学んだ武士の中には、私塾を開いて一般住民に学問を教えた人も多く、その数は十数塾を教え、このようなことから十二所には好学の気風が次第に醸成されていったといわれています。

（十二所史跡保存顕彰会編「成章書院の沿革」から抜粋）

▲成章小学校校庭に建てられた「成章書院跡碑」

「成章」の由来

「成章（章を成す）」の語は論語、公冶第五から採られたものであり、その意味は「美しいあやのある文章をつくる（美しい模様の織物の制作にたとえたとの異説もある）」である。